Ｎｏ．４７０【２０２１年８月２７日配信】

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録決定から１か月（担当：児玉）

こんにちは。文化財課の児玉です。「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録が決定してから、ちょうど１か月が経ちました。

新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催となった７月27日の世界遺産委員会では、速やかな会議進行の観点から、イコモス（国際記念物遺跡会議）が記載勧告を行った案件については、議論を経ずに決議案の採択が行われました。縄文遺跡群についても議論なしに世界遺産登録が決定し、「先史時代の農耕を伴わない定住社会及び複雑な精神文化」「定住社会の発展段階や様々な環境変化への適応」を示すとし、世界遺産としての価値を評価しました。

縄文時代は、約１万5,000年前に土器の出現とともに始まりました。それまでの旧石器時代は、過酷な環境での生活が強いられることから遊動生活が行われていましたが、気候の温暖化や土器の出現等により人々は定住生活を送るようになりました。

世界の歴史では、農耕や牧畜とともに定住が始まることが多いのですが、稲作が伝わる以前に、１万年以上にわたって狩猟・採集を基盤とする定住が続いていた奇跡的な時代が縄文時代なのです。私たちは、社会や歴史の教科書等で狩猟・採集社会である縄文時代のことをあたりまえのように学んできましたが、１万年も続くこの時代は、実は世界の歴史の中では稀有な例であり、この独自性が世界遺産として評価されたのでしょう。

縄文時代の北海道・北東北の地域では、ブナを中心とする落葉広葉樹の森林が広がり、海洋では暖流と寒流が交わり豊かな漁場が生まれました。このような自然環境のもと、縄文の人々は食料を安定的に得るとともに、気候の温暖化や寒冷化などの環境変化にも巧みに適応しながら、狩猟・採集による定住を継続しました。また、長期間にわたる定住により文化が成熟し、大規模な環状列石を構築するなどの精神文化もこの地域の大きな特色です。

登録された各遺跡では、世界遺産としての魅力を広くＰＲするため、イベントの開催に加え、懸垂幕や横断幕を掲げたり、のぼりを設置したりと啓発活動を展開しています。

青森市においても、市民図書館では縄文遺跡群の図書展示コーナーの設置（10月31日迄）、青森駅自由通路の壁面に三内丸山遺跡や小牧野遺跡等の出土品の展示（9月30日迄）、青森市駅前庁舎に懸垂幕等の設置、青森市市バスのラッピングバスの運行などが行われており、身近な場所で縄文遺跡群に触れることができると思います。

市民図書館での縄文遺跡群の図書展示コーナー